

				科目コード	105
科目名	生殖医療と生命倫理			選択区分	必修
単位数	1単位	時間数	15時間	学期	前期
担当教員	小嶋 理恵子、草薙 康城、今村 朋子			区分	助産学基礎領域
授業概要	生殖補助医療の発達は、私たち医療職に対して、医学的知識だけでなく、生命倫理的な考察がいかに重要なのかを問いかけている。また倫理はおかれる立場によって変わりうるものでもあるため、生命倫理に関連する様々なトピックスを通して、対象への理解、援助者である自己理解を深める機会とする。				
授業目標	1. なぜ、生命倫理が論じられるようになったのか、出生をめぐる生命倫理の特徴やそれに伴う助産師のジレンマを通して、自己の考えを深めていくことができる。 2. 今日の生殖医療の現状と課題（不妊治療や、出生前診断、生殖補助医療等）と、それを受ける対象に対する心理・社会的考察を通して、助産師の役割について自らの考えを述べるることができる。				

授業内容

回	項目	内容	担当者
1	助産師と生命倫理	なぜ、生命倫理が論じられるようになったのか 出生をめぐる生命倫理の特徴 出生と死をめぐる助産師のジレンマ	小嶋理恵子
2	不妊の診断と治療	不妊の配偶者間・非配偶者間の生殖医療 不妊治療の流れ 体外受精〔減数手術含む〕に伴う倫理的課題	草薙康城
3	出生前診断	出生前診断・着床前診断の実際 出生前診断に伴う倫理的課題 障害胎児の治療的問題	草薙康城
4	遺伝学・遺伝性疾患	遺伝性疾患とは 診断方法と治療 遺伝性疾患に伴う倫理的課題	草薙康城
5	遺伝カウンセリング	周産期における遺伝カウンセリング	小嶋理恵子
6	生殖補助医療と倫理的課題	生殖補助医療に伴う倫理的課題	小嶋理恵子
7	障害を持つ子の親の受容	受容過程における助産師の役割（GW）	小嶋理恵子
8	ペリネイタルロス	死産・新生児死亡で子どもを亡くした家族の援助	今村朋子
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する取り組み、積極性（20%） ・グループワーク（80%） 		
教科書	特になし。各教員が準備した資料をもとに講義を行う。		
参考図書等	仁志田博司「出生と死をめぐる生命倫理-連続と不連続の思想」（医学書院） 浅井美智子・柘植あづみ編「つくられる生殖神話」（サイエンスハウス他）		
備考			